

2004.12.10 IODP 部会事務局

日時：平成16年11月30日（火） 10:00～12:25

場所：海洋研究開発機構東京事務所

出席者：執行部 徳山・荒井・木戸・徐・巽
事務局 山川・西川 オブザーバー：里村

【会員提案型活動経費について】

- ・ 事務局より、応募リストと選考状況について説明があった。

【専門部会・国際パネル対応について】

- ・ 11月12日に開催された事前調査検討専門部会について、徐執行部員より報告があった。執行部への要望として、シンポジウム・ワークショップ等でプロポーザルの作成に向けた動きが出た際に専門部会に知らせてもらいたい、IODP パネルで評価されプロポーネントにコメントされている事項を専門部会が把握できるよう配慮して欲しい、とのこと。
- ・ については、専門部会委員が、各種シンポジウム・ワークショップ等に積極的に参加して欲しい。
- ・ については、SSEPs 委員等を通じ、差し障りない範囲で情報が伝わるよう検討する。
- ・ SSP 委員のローテーションについて、堆積学、シーケンス層序学を専門とし、震探データの解釈が出来る人材を確保できるよう、企業を含め候補者を検討する。
- ・ 事務局より、11月10日に開催された環境保護安全専門部会の報告があった。12月 EPSP 会議への対応が検討された（後日、鎮守委員の後任として JAMSTEC の丸山正氏が選任された）。環境保護安全専門部会は、EPSP の前日にも、臨時の専門部会を開催する（EPSP 対応検討のため）。
- ・ 徳山部会長より、SPC 会議の報告があった。FY05 年度掘削のスケジュールリングが検討された。現在、共同主席研究者候補の CV を収集中。
- ・ IODP Publication ワーキンググループの検討状況について、伊藤執行部員から資料が配布された。これについて伊藤執行部員には、本資料の重要事項と、これまでの SPC での検討事項との違いをメールで執行部員に説明していただき、これをもとに、コメントのある場合には、伊藤執行部員へ伝えることとなった。
- ・ SSEPs 共同議長のローテーションについて、J-DESC として SSEPs 議長のローテーション方法に対し配慮を求める（E/I 交互に出せるように）レターを出すこととなった（巽執行部員・井龍井龍執行部員が取りまとめる）。また、現状では適任の E 議長候補が少ないため、I においても、万一のことを考えて候補者を検討しておく。
- ・ 加藤 SPC 委員の後任として、山本前 ESSEP 委員に就任を依頼する。徳山部会長が加藤委員と山本氏に連絡、最終的な了解を得て、幹事会に承認を求める。

- ・ 徳山部会長より、ILP 委員選任についての検討状況が報告された。2月の上海会議に間に合うよう、民間企業関係者等と連携し、委員選任を進める。

【国際対応について】

- ・ 徳山部会長・荒井執行部員から、IODP National Office Meeting の報告があった。各 National Office 担当者の顔合わせと、今後の IODP-MI との連携関係等について議論された。
- ・ IODP-MI 理事候補の推薦結果について報告があった（産総研の代理理事候補は佃氏となったことが確認された）。
- ・ 台湾との協議について、徐執行部員より説明があった。あわせて MEXT 里村係長より、MEXT での対応状況について説明があった。
- ・ 韓国との意見・情報交換（韓国の ECORD 加入問題などを含む）を行う必要があり、来年4月頃、韓国から関係研究者を招聘する方向で検討する。
- ・ 本年3月に開催された国際ワークショップのプロシーディングスの作成を急ぐ。
- ・ 徳山部会長より、11月18日の Talwani IODP-MI 代表との会談について報告があった。SAS 構造に関する J-DESC の見解、今後の IODP 運営に関する検討方針（作業小集会の開催など）について意見交換がなされたとのこと。

【広報関連】

- ・ 木戸執行部員より、AGU（12月）について対応方針が説明された。IODP-MI 主催の IODP 展示ブース運営に協力する。また、14日に開催される IODP タウンミーティングと IBP タウンミーティングについて、コンソーシアム ML で再度周知する。
- ・ コンソーシアムホームページの韓国語版・中国語版を作成する。巽執行部員が IFREE の研究者に協力依頼する。

【IODP 乗船研究関連】

- ・ 荒井執行部員より、タヒチ MSP 航海の乗船研究者の応募状況が報告された。17名の応募があり、専門部会で順位付け作業を行っている。
- ・ 荒井執行部員より、NA-II 航海の乗船者のキャンセルと追加募集について報告があった。
- ・ 現在スケジュール中の USFY05 年度の JR 号航海より、アジア諸国の研究者の乗船応募を認めることが確認された。各国には、原則として各国の National Office を通じて、J-DESC 所定の書式を提出していただく。なお、応募者の順位付けの際、上位（乗船定員まで）に1～2名の外国人研究者が含まれるよう、一定の配慮をすることが確認された。

【その他】

- ・ 新部会長の選任について、木村 WG 長が早急に対応する。
- ・ 徳山部会長より、執行部の改選の際、新部会長から留任を求められた現執行部員は可能な限り留任するよう要望が出された。
- ・ 会費未納機関に督促状を発送することが確認された。
- ・ コンソーシアム会費の旅費への使用を可能とするため、コンソーシアムと地球機構との間で覚書を締結することが承認された。なお、旅費執行にあたり旅行傷害保険を付保す

るかについては、保険会社の見積もりを見て判断する（事務局が見積もりを取る）。

- ・ 合同学会の特別セッションの開催が承認された。
- ・ 今年度末に IODP、陸上掘削、ODP を含めた J-DESC シンポジウムを開催することが提案され、巽執行部員が対応することが決定された。今後、合同大会の特別セッションとの関係等を含め、陸上掘削部会等と調整を進める。なお、このシンポジウムの成果については、冊子等の形で残るものとなるよう配慮する。
- ・ 各専門部会担当者は、今年度中の専門部会等の開催予定を、12月20日までに事務局に伝える。
- ・ 次回執行部会は1月11日（火）の15時から開催する。